

排水の放射能濃度等測定（速報）

（1）排水処理の概要

- 実証ヤードにおいて放射性物質を取り扱う場所では、基礎地盤への水の浸透を防ぐため遮水シートを付設し、集めた雨水等を排水処理施設まで移送する（図1）。
- 収集した水は、排水処理施設の凝集沈殿装置等で処理する。
- 処理後に放射能濃度、pH及び浮遊物重量（SS）が基準値を満たすことを確認し放流する。

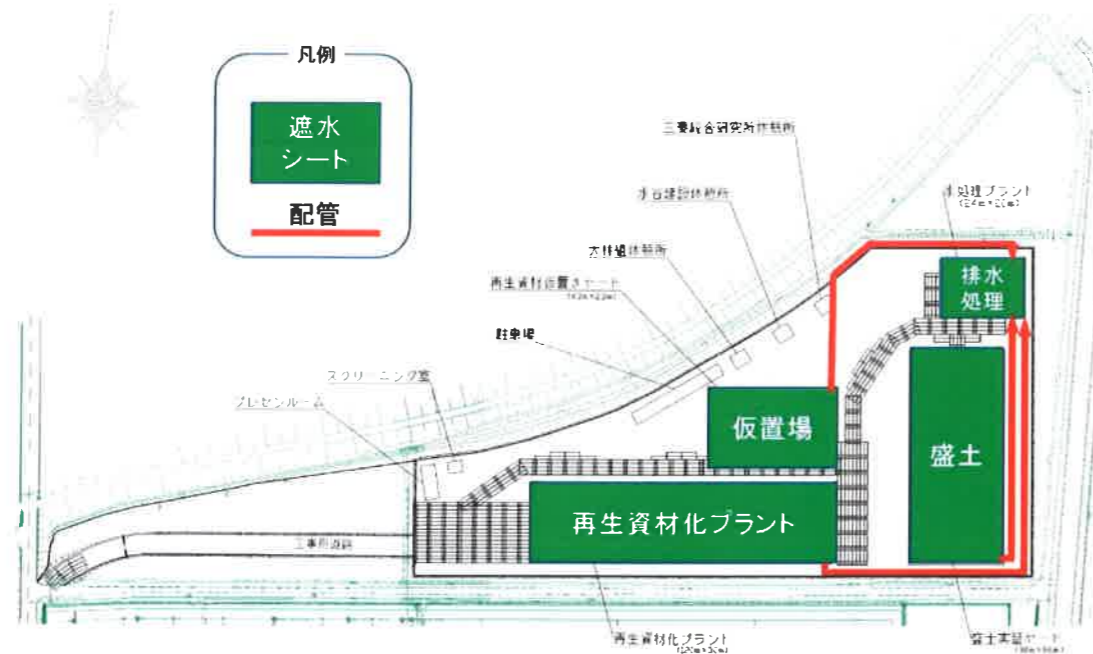


図1 実証ヤードの配置と各試験場からの配管ルート

（2）排水の測定結果

- 放流時の排出基準及び測定値を表1に示す。

表1 排水の測定結果

項目	放流基準値	4月					5月		
		5日	14日	19日	26日	28日	13日	15日	16日
放射能濃度 ※	Cs134 60Bq/L以下 Cs137 90Bq/L以下	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
水素イオン濃度(pH)	5.8 ~ 8.6	7.69	7.94	7.99	7.85	8.02	7.83	8.56	8.28
浮遊物重量(SS量)	50 mg/L以下	10.2	8.7	4.6	0.7	3.0	1.6	5.5	4.9

※これまでの放射能濃度の測定では、Cs134、Cs137ともにすべてND（検出下限値以下）である。

※検出下限値は測定回ごとに異なるが、概ね4.3~7.1Bq/Lの範囲である。

※浮遊物重量（SS量）は、ポータブル濁度計での測定値。定期的に別途計量機関で浮遊物重量（SS量）を計測中。

（3）測定装置

- 放射能測定装置を図2に示す。



Thermo SCIENTIFIC 社 高感度ガンマ線食品モニタ SX-SPA

図2 放射能測定装置

- pH及び浮遊物重量（SS）はポータブルの計測器により測定を行う。放流時のポータブルの測定器によるpH及びSSの測定状況を図3に示す。



pH：東亜ディーケーケー株式会社 ガラス電極式水素イオン濃度指示計 HM-30P

SS：東亜ディーケーケー株式会社 ポータブル濁度計 TB-31

図3 ポータブル測定器によるpH及びSSの測定